

青少年への声掛けとは……

あいさつをする、良い行いをほめる、頑張っている姿を励ますなど、日常生活の中で無理のない取組をお願いしています。

子どもたちは声を掛けられると、地域の大人に見守られている安心感を抱くとともに、自尊感情や自己肯定感が高まるなど、健全育成への効果が期待されます。

参加者から寄せられた感想

「あいさつ」から始まる素敵な出会い



登校時に「おはよう」「行ってらっしゃい」と声を掛けています。最初は恥ずかしくて下を向いていた子も、今では元気に「おはようございます」と進んであいさつしてくれます。笑顔で返事をしてくれるので、こちらもうれしくなります。大人からの声掛けが大切です。

(40代 男性)

「こんにちは」「気をつけてね」などと声掛けをしています。最近ではお互い顔見知りになり、子どもたちの方からあいさつしてくれるので、とてもうれしく励みになります。毎日ハイタッチしてくれる子どももいますよ。子どもたちとの距離が縮まったと感じます。

(30代 女性)

「ほめる」ことで深まる信頼関係



息子が近所の方にあいさつしたところ「良いあいさつだね」とほめてもらい、「明日もあいさつするんだ」と、とても喜んでいました。子どもたちは地域の大人に見守られているという安心感を持ち、地域に結びつきが生まれ、良い影響が広がっていると感じます。

(20代 女性)

休日に近所の公園を散歩中、散乱したゴミを片付けようとしたら、近くにいた子どもたちが手伝ってくれました。「ありがとう」と言うと照れくさそうにいましたが、毎朝の声掛けであいさつする子どもたちでした。地域の結びつきを感じ、うれしくなりました。

(30代 男性)

「励ます」ことでできる心の居場所



近所の高校生に電車の中で偶然会いました。サッカーの格好だったので「試合頑張ってるね」と声をかけたところ、「ありがとう」と言って、駅では乗換のホームまで案内してくれました。次に会ったときに「この前の試合でね……」とうれしそうに話してくれました。

(60代 男性)

顔見知りになった子どもたちは、あいさつだけでなく、学校のことも話してくれます。励ましてあげると、うれしそうな顔をしてまたいろいろ話してくれます。声掛け運動を今後も継続し、地域で子どもたちを見守る環境作りが私たち大人の役割、使命だと思います。

(60代 女性)